

志方地区の教育環境に関するアンケート調査の結果について

1 調査目的

少子化による児童生徒の減少及び学校の小規模化が進む中で、志方地区の子ども達のためのより良い教育環境のあり方について協議を進める際の貴重な資料とするため、志方町の全戸を対象に、「志方地区の教育環境に関するアンケート調査」を実施しました。

2 調査概要

(1) 調査期間

令和6年3月1日（金）から3月29日（金）まで

(2) 調査対象

志方町の全戸（3,603戸）※令和6年3月1日現在

(3) 調査方法

町内会等を通じた全戸配付、返信用封筒による郵送回収

(4) 回収結果

区分（地区全体・居住校区别）		配付数	回収数	回収割合
①	志方地区全体	3,603	1,052 (※1)	29.2%
②	うち、志方小学校区	1,636	412	25.2%
③	うち、志方東小学校区	983	347	35.3%
④	うち、志方西小学校区	984	289	29.4%

※1：うち、1件は白紙提出分、3件は居住校区無回答

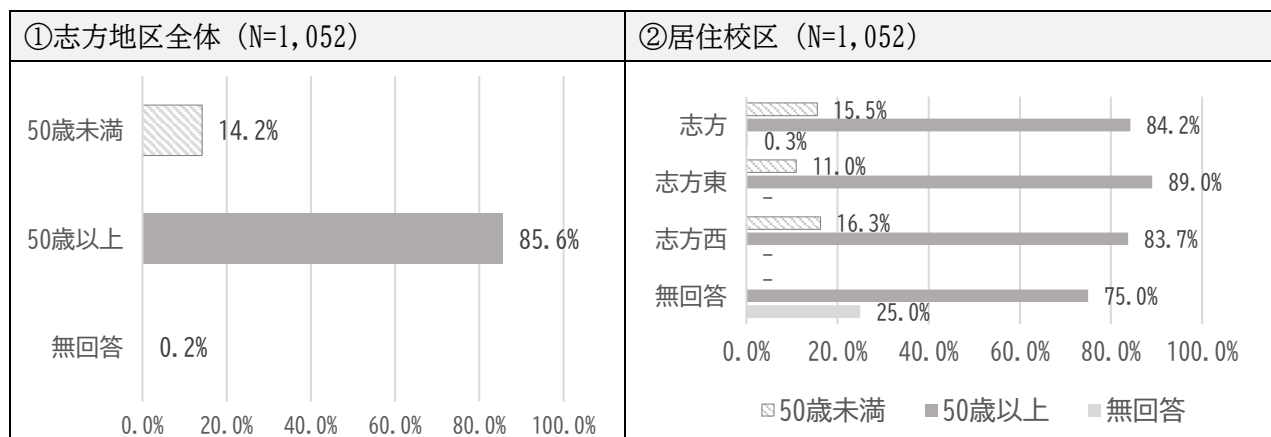
(5) 回収結果に対する住民基本台帳上の人口・世帯構成の割合との比較・検証と考察

- ・居住校区别での比較では、回収結果の回収割合と同様、志方東小学校区において、他の小学校区よりも回収割合が相対的に高かった。
 - ・年齢層及び同居世帯の就学状況別での比較では、以下の「3 回答者の属性」の傾向と大きな偏りや差異はなかった。
 - ・住民基本台帳上での中学生以下の子どもがいる家庭数に対する回収数の割合は、志方地区全体で40%を超えている。居住校区别では、志方小学校区では約35%、志方東小学校区では約50%、志方西小学校区では約40%である。
 - ・住民基本台帳上での中学生以下の子どもがいない家庭数に対する回収数の割合は、志方地区全体で約20%である。
- 中学生以下の子どもがいない家庭からの回収割合が低いことが、全体の回収割合を押し下げている。
- 中学生以下の子どもがいる家庭からの回収割合は志方地区全体で40%を超えており、中学生以下の子どもがいる家庭の意向は反映されたアンケート結果であると考えられる。

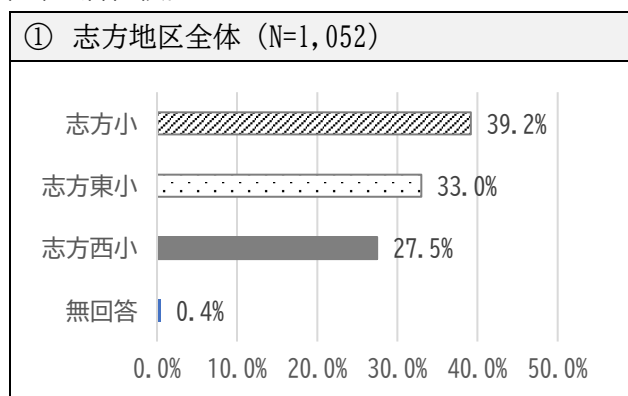
3 回答者の属性

- ・集計表の見方：「N」は、質問に対する回答数。また、回答比率（％）は回答数（N）を100％として算出し、小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100％にならない場合がある。（「4 項目別アンケート結果」も同様）

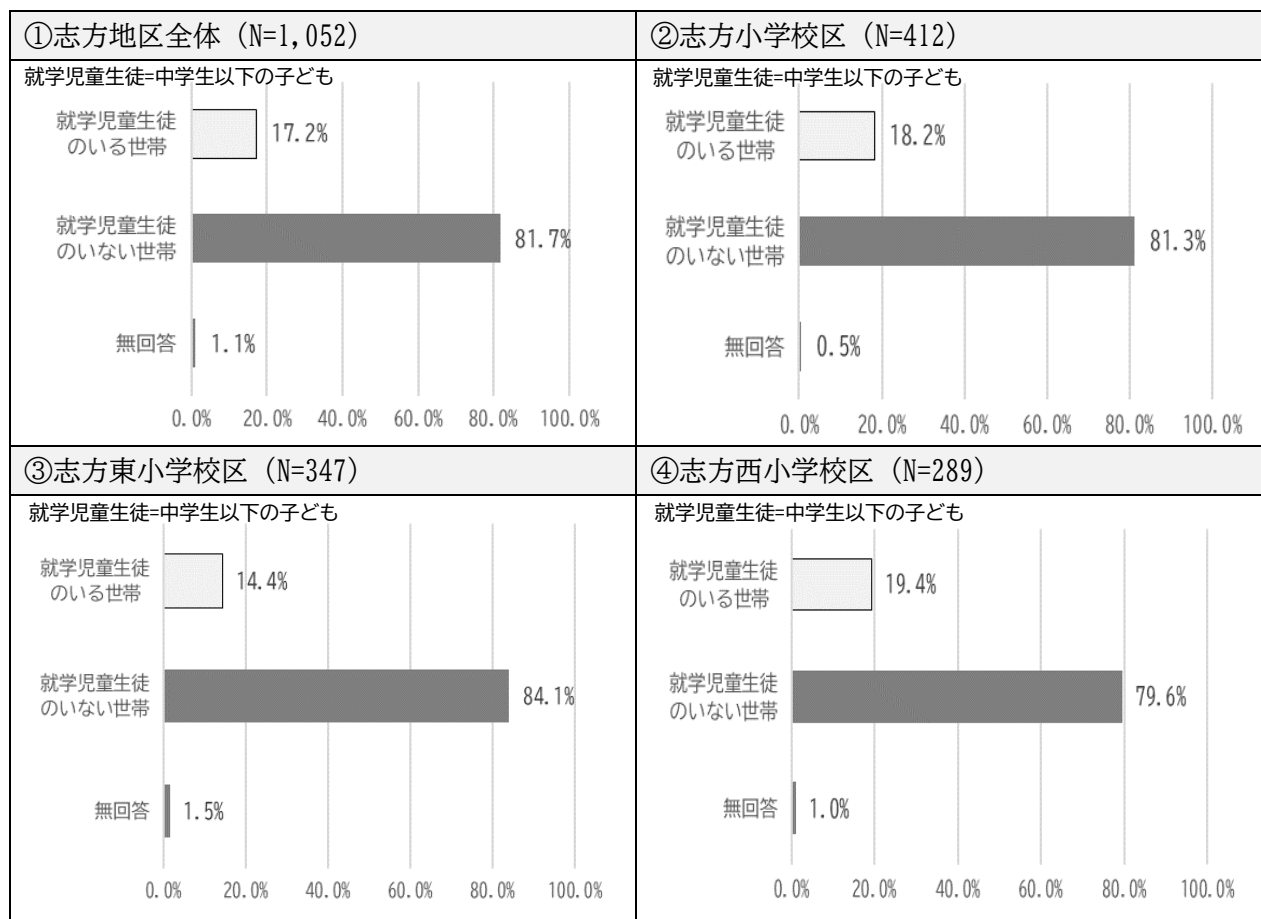
(1) 年齢層



(2) 居住校区



(3) 同居家族の就学状況（中学生以下の子どもの同居状況）



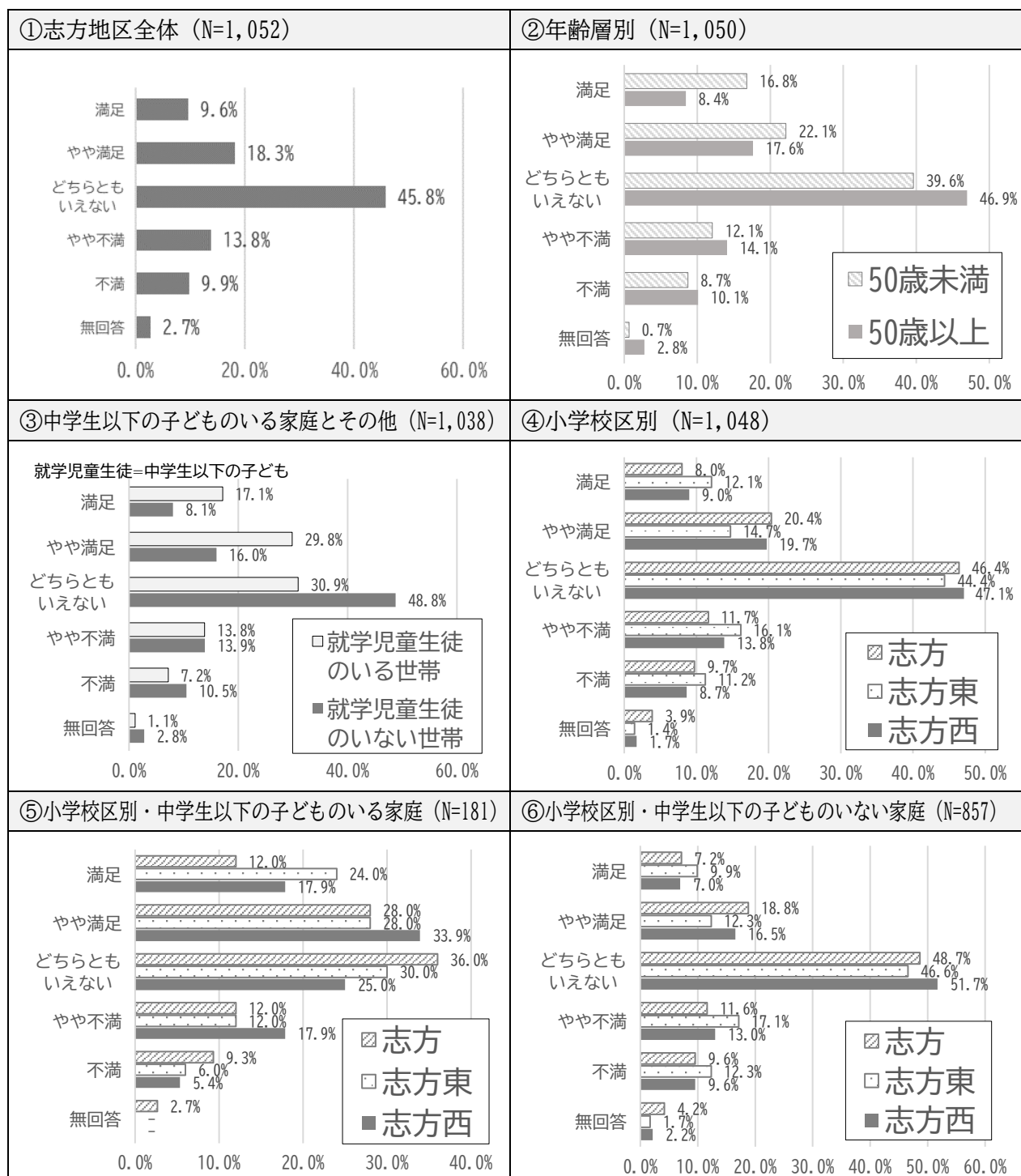
4 項目別アンケート結果

(1) 現在の志方地区の教育環境について

現在の志方地区の教育環境に対する満足度についての設問では、①志方地区全体で「満足・やや満足」が27.9%、「やや不満・不満」が23.7%となっている。

②年齢層別では、50歳未満では「満足・やや満足」が38.9%、「やや不満・不満」が20.8%、50歳以上では「満足・やや満足」が26%、「やや不満・不満」が24.2%となっており、50歳未満の回答層が相対的に満足度の高い傾向にある。同様に、③中学生以下の子どもがいる家庭とその他の家庭別でも中学生以下の子どもがいる家庭が相対的に満足度の高い傾向にある。

④小学校区別でみると、志方東小学校区において「やや不満・不満(27.3%)」が「満足・やや満足(26.8%)」を上回っている。これは、⑤小学校区別・中学生以下の子どもがいる家庭では「満足・やや満足(52%)」が「やや不満・不満(18%)」を大きく上回るものの、⑥中学生以下の子どもがいない家庭で「やや不満・不満(29.4%)」の割合が高いことが影響している。



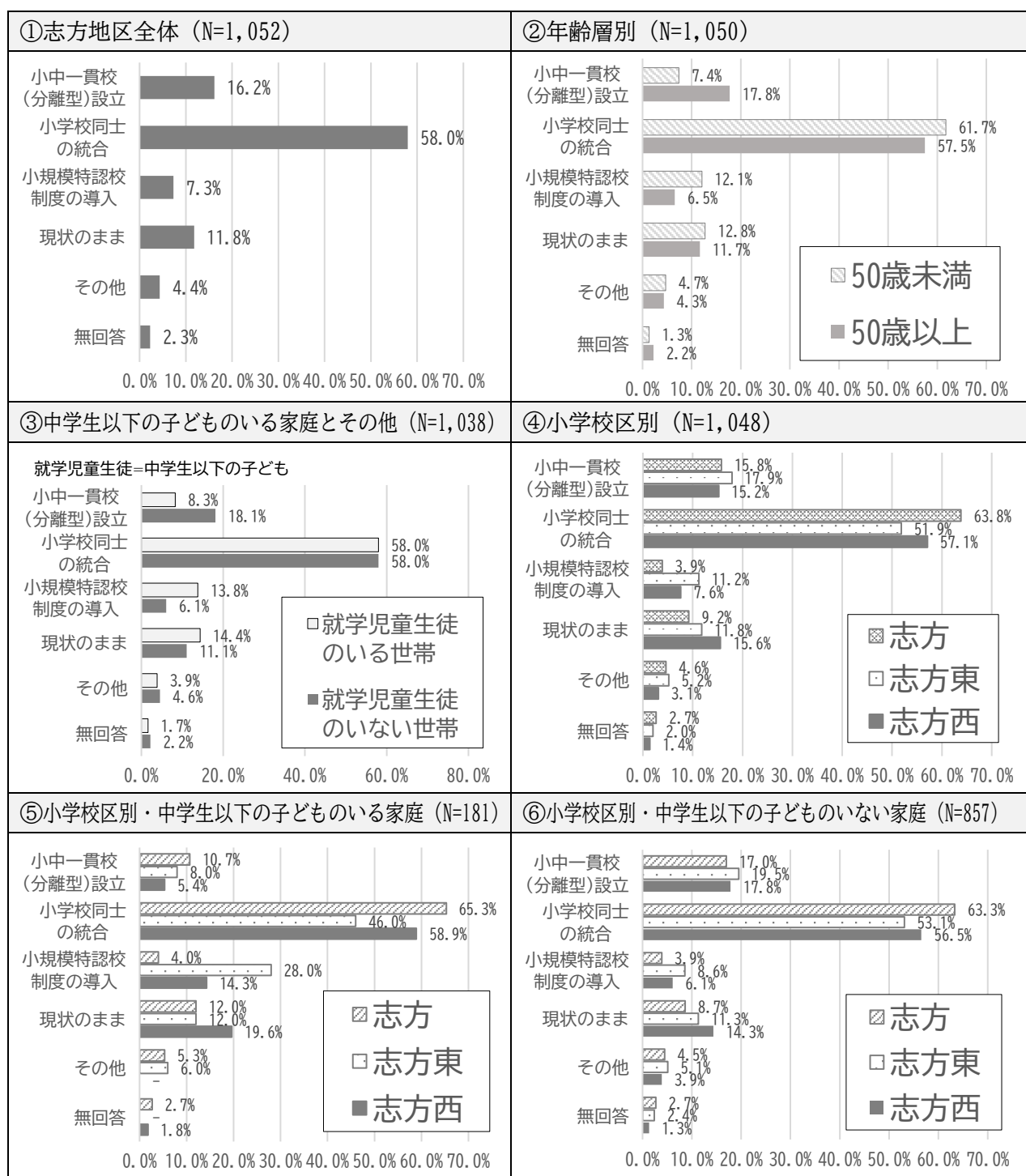
(2) 今後、直近5年間に於ける志方地区の小中学校の形について

今後、直近5年間に於いて志方地区の小中学校はどのような形になってほしいと思うかについての設問では、①志方地区全体で「小学校同士の統合」を選択した割合が50%を超えている。

同様に、②年齢層別、③中学生以下の子どもがいる家庭とその他及び④小学校区別においても「小学校同士の統合」が50%を超えている。

⑤小学校区別・中学生以下の子どもがいる家庭では、志方東小学校区において「小学校同士の統合(46%)」が最も高いものの、「小規模特認校制度の導入(28%)」を選択した割合が他の小学校区より高い傾向にある。

「小学校同士の統合」を選択した方への、どのような形の統合が望ましいと思うかについての設問では、⑧全体、⑨年齢層別、⑩中学生以下の子どもがいる家庭とその他の全てにおいて「3校統合」が8割を超える結果となった。



⑦小中一貫校の設立（施設分離型）を選択した理由（N=171）

■ 主な理由

- ・「他校との連携により、多様な人間関係が構築でき、児童生徒の社会性の高まりが期待できる」
- ・「将来的な学校規模の適正化に向けて、当面は学校施設を有効活用しながら、直近での生徒児童数減への応急策として」

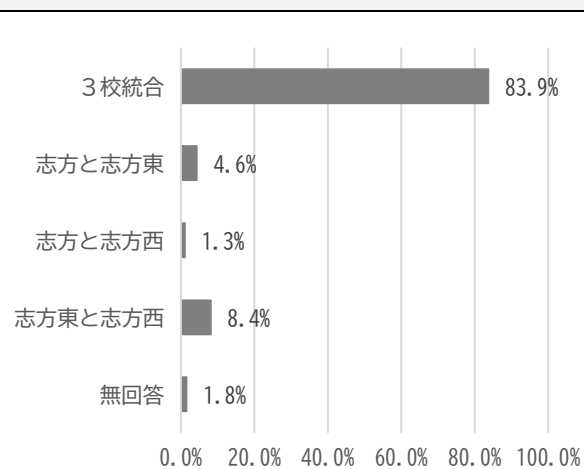
■ 理由の傾向

- ・他校の児童生徒との交流が生まれることで、多様な人間関係を築くことができるという意見や、児童生徒数が減少している現状を踏まえると、直近5年間では有効な応急策になるという意見、また、現在の学校施設を有効活用できるとする意見が多数となっている。
- ・年齢層、居住校区、同居家族の就学状況別での選択理由の傾向に、大きな差異はみられない。
- ・ただし、「小中一貫校（施設一体型）」と誤認した回答や無回答も一定数みられた。

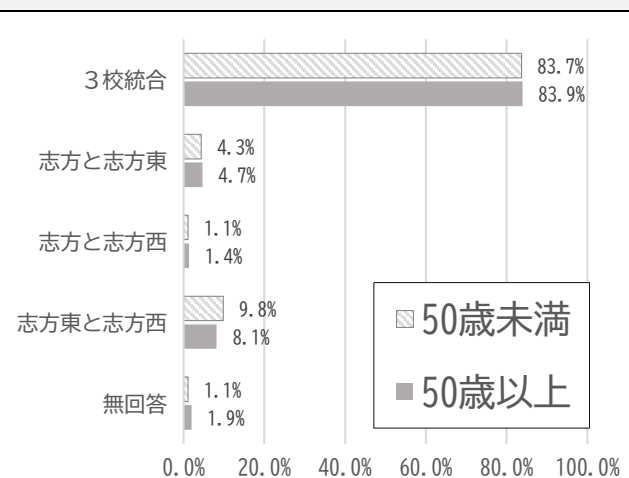
■ その他の理由

- ・「小中での一体性をもったカリキュラムを実施しやすい」
- ・「児童生徒への負担が少なく、小中の連携が高まり、中学への進学時の引継ぎがスムーズになる」
- ・「各地域に学校があり、現在の通学距離とも変わらないため、児童生徒の安全面が確保できる」
- ・「現在でも志方ユニットで3小学校での様々な取組みが行われており、各地域の特色も活かせる」
- ・「整備期間や費用面も考慮し、将来の施設一体型での小中一貫校設立に向けた準備として」
- ・「クラスの児童生徒数が少なくなると、競争力が低下し、将来の人間関係にも影響が出てくる」
- ・「母校や地区内に小学校を残したい」 等

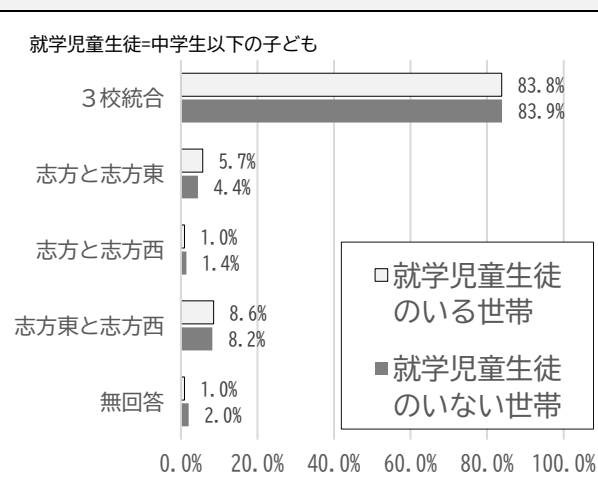
⑧小学校同士の統合の形（全体）（N=610）



⑨小学校同士の統合の形（年齢層別）（N=610）



⑩小学校同士の統合の形（中学生以下の子どもがいる家庭とその他）（N=610）



⑪小規模特認校制度の導入を選択した理由 (N=77)
■ 主な理由 ・「志方地区の地域や自然環境の特色を活かした教育により、不登校児を含む他校からの児童生徒数の増が期待できる」 ・「直近での児童生徒数増に向けた応急策として」 ・「小規模校・少人数学級の維持のため」 ■ 理由の傾向 ・志方小学校区及び志方西小学校区においては、年齢層、同居家族の就学状況別での選択理由の傾向に大きな差異はみられず、当該制度を導入することで、他校からの転入学による児童生徒数の増が期待できるとの意見が多かった一方で、理由無回答の割合も志方東小学校区より多かった。 ・志方東小学校区においては、地域の特色や豊かな自然環境を活かした教育ができるという理由を挙げた意見が多く、児童生徒数の増も期待できるとする意見が多かった一方で、当該制度を導入することで、小規模校を維持したい・母校を残したいとする意見もあった。 ■ その他の理由 ・「統廃合に伴う通学上の問題や現在の学校施設の有効活用のため」 ・「都市計画上の観点から、統廃合しても一時しのぎにすぎない」 等
⑫現状のままを選択した理由 (N=124)
■ 主な理由 ・「学校の統廃合に伴う通学不安や将来的な学校規模の適正化を見据えて、当面は現状維持でよい」 ・「現状の教育環境に不満がなく、今のまま、学校・地域の歴史や伝統を大切にしたい」 ■ 理由の傾向 ・理由無回答や具体的な理由がない意見が過半数となっている。 ・年齢層、居住校区、同居家族の就学状況別での選択理由の傾向に、大きな差異はみられない。 ・具体的な理由では、統廃合等に伴う通学不安や歴史や伝統・母校への愛着などであった。 ・また、特段、現状の教育環境に不満がなく、環境を変える必要がないとする意見も一定数あった。 ■ その他の理由 ・「直近5年間であれば、今の学校を残したまま、各校での教育を続けていくべき」 ・「統合したとしても、クラス数が大きく増えることはない。距離的にも統合は難しい」 ・「予算や経費をかけなくて済む」 ・「小規模校、少人数学級の良さがある。直近であれば、複式学級での対応も可能ではないか」 等
⑬その他を選択した理由 (N=46)
■ 主な理由 ・「小中一貫校（施設一体型）の設立」、「近隣地区の小・中学校との統合」 ■ 理由の傾向 ・理由の4割超が小中一貫校（施設一体型）に関するものとなっている。 ・理由無回答や不明（現時点で回答できない・わからない）という意見も約3割あった。 ・近隣地区（神吉地区）の小・中学校との統合を挙げた意見が一部あった。 ■ その他の理由 ・「小規模特認校制度を利用した小中一貫校の設立」 ・「志方東小の児童生徒について、スクールバスを活用し、両荘みらい学園へ通学」 ・「直近だけではなく、将来を見据えたあり方を考える必要がある」 ・人口減少、少子・高齢化対策、まちづくりに関する意見 等

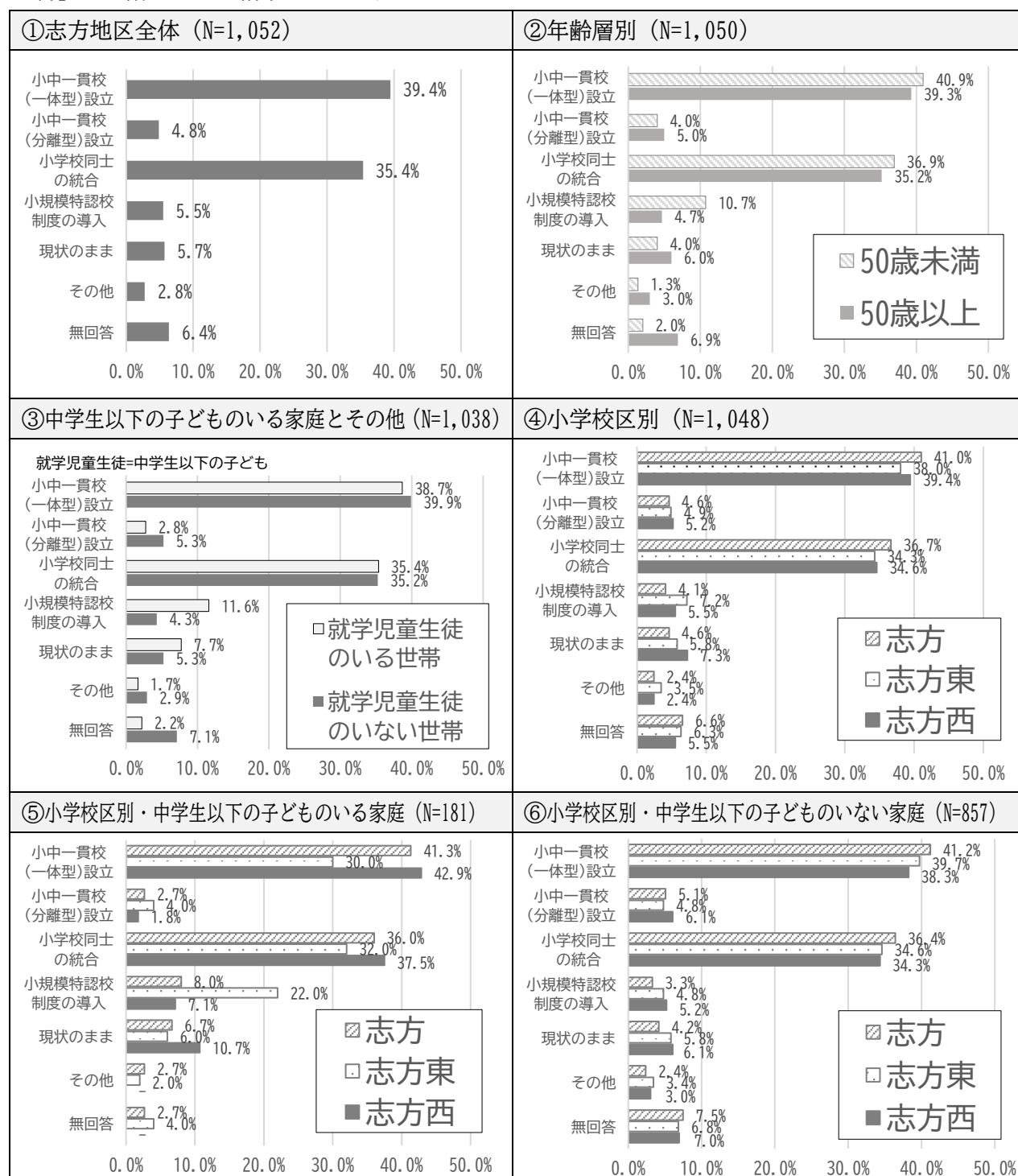
(3) 将来(10年、20年先)における志方地区の小中学校の形について

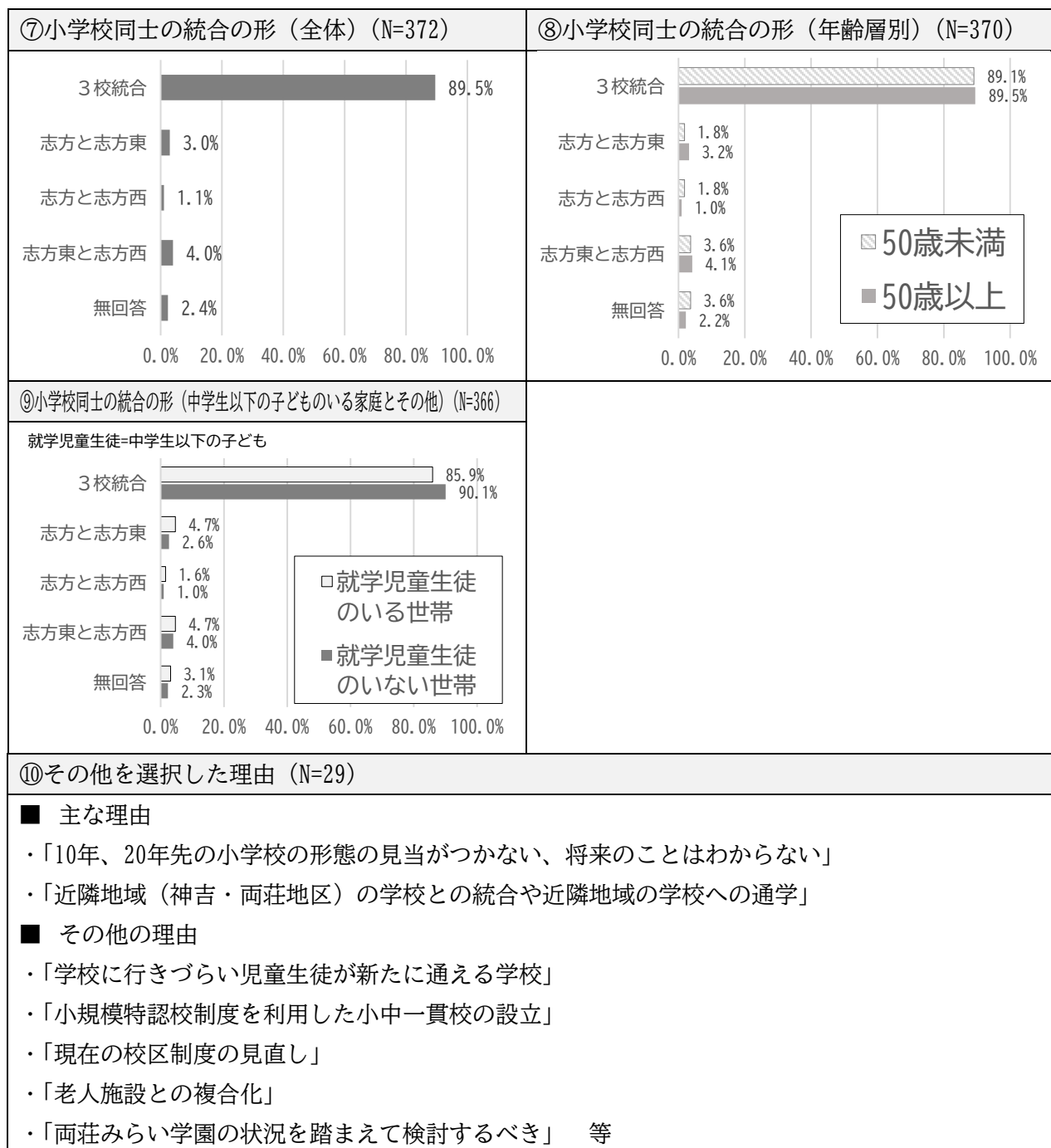
将来(10年、20年先)において志方地区の小中学校はどのようになってほしいと思うかについての設問では、①志方地区全体で「小中一貫校(一体型)の設立(39.4%)」が最も高く、次いで「小学校同士の統合(35.4%)」となっており、これらが全体の回答の約75%を占めている。

②年齢層別、③中学生以下の子どもがいる家庭とその他及び④小学校区別においても同様の結果となっている。

⑤小学校区別・中学生以下の子どもがいる家庭においても同様の結果であるが、志方東小学校区において「小規模特認校制度の導入(22%)」を選択した割合が他の小学校区より高い傾向にある。

「小学校同士の統合」を選択した方への、どのような形の統合が望ましいと思うかについての設問では、⑦全体、⑧年齢層別、⑨中学生以下の子どもがいる家庭とその他の全てにおいて「3校統合」が8割を超える結果となった。





（４） 自由意見（N=455）

（主な意見）

- ・ 志方地区の自然や特徴を活かした学校づくり、特色のある教育環境の整備を期待する意見
- ・ 両荘みらい学園を参考に、将来的には、小中一貫校の設立を求める意見
- ・ 現状維持や小規模校の維持を望む意見
- ・ 小学校の統廃合に伴う学校施設の活用や跡地に関する意見
- ・ 通学路、通学バスに関する意見
- ・ 子どもたちの教育環境を最優先に考えるべきとの意見
- ・ 自然溢れる志方地域の特色や魅力・誇り・愛着等に対する意見
- ・ 地域や高齢者との交流が可能な教育環境を期待する意見
- ・ 人口減少対策、子育て政策、都市計画やまちづくりに関する意見 等